

キャンヘルプタイランド

ネットワーク通信

バンコク便り

2012年1月31日発行 第56号

タイ・バンコク在住の西川会長から

会員の皆様、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

前回のネットワーク通信では、バンコクも数日のうちに大規模な洪水被害に見舞われるのではないかとようなことを書きましたが、その後の顛末は皆さんもご存じのとおりです。タイ中部の深刻な洪水被害については日本でも大々的に報道されていたようですので、今回は私自身の経験を書きたいと思います。

私の家は、バンコク都内の北部にあります。チャオプラヤー川からはかなり離れているため、当初洪水の心配はほとんどしていなかったのですが、バンコクでの洪水が、川の氾濫ではなく、バンコクより北の地域ですであふれ出た水が面的にじわじわ南下してくることによって起きそうだとわかってから、にわかには危険地帯だと言われるようになりました。

洪水の進行は本当にゆっくりで、「明日は危ないよ」と毎日のように言われ続け、また遠回りさえすればなんとか家に帰れた一昨年のデモとは違い、洪水になったら家には帰れないかもしれないなどと考えると、なかなか気が休まりませんでした。

そして、いよいよというころ、長靴を買い求めようといろいろな店を回ったのですが、どこへ行っても見つかりません。そう言えば、タイに来てから長靴というものをみたことがありません。水仕事をするときには、裸足でやればいいのだし、業務用を除いてあまり需要がないのでしょうか。

11月4日の朝、仕事に出かける時、最寄りの駅から数100メートル先の所まで水が来ているのが見えました。帰りはもう水没していると覚悟を決め、そのまま出勤した帰り途、なんと地下鉄の駅前で、売り子が大量の長靴を売りさばっていたのでした。この商魂逞しさにお見事と言いたくなるほどでした。

その後、水位は日に日に増し、その日買った長靴は1日で用を足さなくなりました。数日で、一般車両通行止めになり、避難勧告が出されました。

私のマンションは、幸い敷地への浸水はなく、電気水道も通常どおり使えたこと、また外の道も最高膝上10センチぐらいの水位をなんとか保ってくれたので、私はそのまま住み続けることにしました。

駅へも歩いて行ける距離なので、丈の長い2足目の長靴を履いて水の中をジャバジャバ歩いて出勤していました。地下鉄は一日も運休することなく運行を続けました。(各駅に「日本の技術協力を得て建設されました」という表示が掲げられているので、止まらなくて本当によかったです。)

私のようにそのまま続けている人も多く、最寄りの地下鉄駅では、朝夕大勢の人が並んで長靴に履き替えたりしていて、その姿は何とも滑稽でした。そんな中、見知らぬ人と顔を見合わせて微笑んだり、声を掛け合うことが多くなりました。日本の地震のときもそうだったでしょうが、困った時に、人の本来持っている優しさというのは表に出てくるのかもしれない。

さて、一般車両が通行止めになった道路ですが、さほど水位が高くなかった私の家の近辺では、エアコンなしバスだけが、運行を続けていました。はやく全部エアコン付きにすればいいのに、と思っていたのですが、思わぬところで面目躍如です。また、軍や役所がトラックを出して、送迎サービスをしてきていました。行政だけでなく、企業が出すトラックもどんどん増えていきました。企業名を大きく書いたトラックを走らせ、企業名の履いた救援袋を配っていくのです。日本なら売名行為だと批判されそうなほど、派手な支援ですが、できる人ができることをやっているという意味で私は好感が持てました。そうして、私の家の近辺では何とか移動の手段は確保できていました。

もうひとつ面白いと思ったのは、タイ人の反応です。もちろん深刻な被害を受けて精神的なダメージを受けている人も

いたかと思いますが、インターネットを見ていると、洪水を面白おかしく笑い飛ばしたユーモラスなコメント、風刺、政治家への揶揄など、不謹慎だと叱られそうだけど、つい笑ってしまうような書き込みが溢れていました。うちの近所でも水の中を鬼ごっこして走りまわる子どもたち、水の中に足を突っ込んで、酒盛りを始める人たちなどもいて、何とも前向きだなあと考えたものです。

さて、私の近所では、11月14日ごろから徐々に水が引き始め、17日には完全に水がなくなりました。水が引いた後の道は、一部に泥が残り、水浸しになった家財を処分する家がところどころにあるほかは、ほとんど元どおりの町に戻り、今回の洪水は、私にとってはたった2週間の冒険でもしたかのような、何でもない経験として終わってしまいました。ただ、一夜にして一変してしまった自分の住む町を目にしたときの何とも言い表せない気持ち、水浸しだろうがなんだろうがやっぱり家に帰りたかった気持ちを実際に感じてみて、洪水や地震、津波の被害に遭った人たちの気持ちがほんの少しですが、わかったような気がしました。

2011年はタイにとっても、日本にとっても大変な年でした。しかし、この災害をとおして、お互いの存在を確認しあった年であったとも思います。今回の洪水では、日本人は日本の経済が実はタイに大きく依存しているということを知ったでしょうし、タイ人はポンプ車の出動などでやっぱり日本という国は頼りになる国だと再確認してくれたでしょう。2012年もどういう形であれ、両国の関係がいい方向に深まっていけばいいなと改めて思います。



撮影位置は歩道の上。中央分離帯もすっかり水没。



地下鉄の駅にできた臨時足洗い場。



2足目の長靴。伸ばせば股まで守れます。



上と同じ場所から撮影。水が引いたあと。



ボートで移動する人も。



水が引いたあと、左と同じところで撮影。



軍のトラックとそれを待つ人々。



運行を続けるエアコンなしバス



その頃の勤務先周辺。被害はまったくなし。



保存食品や飲料はどれも品切れ。



洪水対策に鉄扉を一部閉じて営業を続ける地下鉄。



水没翌日の私の最寄り駅。静かでした。



水が引いた直後。



このボートは有料でした。



水が引いたあと。

西川弘達

報 告

～FREE 事務局から～ 報告者：FREE 事務局長 ムティター・パーニッチ

みなさん、タイの挨拶をご存知ですか？「サワディー・カ/クラップ」の次にいつも「お元気ですか？」または「ご飯食べましたか？」と聞きますが、ここ最近バンコク首都圏では「洪水は大丈夫でしたか？」に変わりました。

NT 通信55号にも書きましたが、FREE 事務所は非難準備を10月上旬から始めました。一番大変なのは荷物を運ぶことでもなく、土嚢を並べることもなく、一緒に住んでいる高齢者を非難させることでした。タイでは非難するほどの災害はごく少なく、体験した人は1割もいないと思います。家には高齢者が3人もいますが、体験した人は全くいません。しかし、10キロほど北にある工業団地に水が入って、周りに住んでいる住民に非難勧告として大量の花火を同時に打ち上げられたおかげですんなり高層マンションに非難しました。翌日の夕方、私が出張でいないときには市が非難準備勧告（3時間で非難できるような大勢を薦める）を出したことを聞いて、あぶなかったなあと思いました。

それでも市はよく頑張ってくれました。粘土質の土の大きな堤防が造れるところは造り、合計して約50キロの長さに及びました。川のすぐそばなどでできないところは土嚢の堤防を造りました。水の量が多くて普通に土嚢を積んでも簡単に壊れてしまう例が多くある中、私の住んでいる市の堤防はちゃんと考えて、内側に水が少し出られるよう堤防にパイプを入れました。適度に水圧を下げることで堤防は最後まで持ちました。使った土嚢は10万個以上ですが、市の職員、市民ボランティア、一般ボランティアが一所懸命土嚢を作っていました。実はキャンで一緒に活動していた友達が10月に家に遊びに来て、一緒に土嚢作りにも参加してくれました。砂が重くて大変でしたが、みんなの力を持ち寄せて作った土嚢でみんなのところを守り抜いたということになったので、市民の絆は一層強くなりました。

都心の高層マンションに非難して一週間たったところで、JICAから電話がかかってきて、日本から緊急支援チームが来るので通訳してくれないかという内容でした。避難生活はテレビのニュースばかり見ていて心配するだけだから、それより何か役に立つことがあればと思い、10月末から緊急支援チームの通訳を務めました。

日本からの支援はたくさんありましたが、私が直接関わったのは『排水支援』チームでした。東日本大震災のとき、タイからたくさん支援があったから、恩返しとして日本の国土交通省がタイに排水ポンプ車と必要なスタッフを出して排水作業に当たることを考え



たようです。最初の3週間（10月31日～11月17日）は準備期間でいろんなところに視察に行きました。国内空港（ドンムアン）では、エンジン故障中の飛行機が何機もそのまま残されて、飛行機が海の中に浮いているような光景も目にしました。普段1時間で行けるアユタヤは、途中の洪水の影響で5時間もかかったこと、視察には、大型トラックやボートに乗り換えることが毎日続きました。最初に排水支援の候補にあがったのは、堤防が比較的しっかりした工業団地でした。今回の洪水で7つの工業団地が水没したことで30万人以上の人が仕事できなくなったと報道されました。視察したとき、工業団地内の水の深さがまだ2メートル以上あるところもありました。

国土交通省の専門家から聞いた話では、日本も台風などで洪水がよくありますが、勾配があるため、2-3日で水が引きます。タイは勾配がなく、更に盆地で工業団地を作ったので排水作業は大変なものになります。各工業団地でも頑張って排水計画を作ったものの、集めたポンプの数が足りなかったり、ポンプの故障があったりしたので、より効率的に排水できるように日本のポンプ車と一緒に排水活動に加わることになりました。

11月17日から派遣されてきたのは排水ポンプ車と国土交通省の方と、大手建設会社のスタッフと、ポンプを開発した企業の技術者でした。ポンプを運んだり掃除したりするのはタイの労働者です。最初は言葉が分からないのでお互い戸惑っていましたが、段々慣れてくると、キャンのワークキャンプみたいに日本人とタイ人の興味あるところ、例えば食べ物の話、洪水の話、地震の話まで話題が広がっていきました。仕事のときは一所懸命、休みのときは楽しく話しをすることができました。

その他に大学や集落にも日本の排水チームが大活躍し、12月26日に帰国しました。合計して排水ポンプ車10台、日本人技術者や運営スタッフ51名が1ヶ月以上緊急排水をしてくださいました。タイ人の代表として感謝の気持ちを申し上げます。



○カサロンの家から



- カサロンに新しい寮母さんがきました。メーホンソーン県から来た 25 歳、カレン族のキムさんです。
- キャンヘルプタイランドの支援でカサロンの家に車 1 台が入りました。学生たちを学校まで運んでくれます。



キャンが支援した通学用ピックアップトラック

〇すみれ奨学金

2012 年度の短大、大学奨学金は 11 月 30 日締め切りでした。今年の応募は 136 名、うち専門学校進学希望者 30 名、短大進学希望者 11 名、大学進学希望者 95 名でした。地域で見ると、北部が 44 名、東北部 39 名、中部 16 名、南部 37 名でした。

FREE の奨学金委員会で第 1 回審査会を終え、23 名の候補者が残っています。1 月 28 日に第 2 回審査会を行ったあと、インタビューを実施する予定です。その後 2 月～3 月にかけて候補者の家訪問が待っています。

報告 2

～運営委員からの報告～

報告者 大矢 治夫

① 第 14 回花のまち可児手づくり絵本大賞応募の報告

今年も可児市の絵本コンテストタイから 4 作品を応募いたしました。昨年は念願の初入選を果たし、奨励賞の荣誉に輝きました。

今年度の応募総数 393 冊、その内外国はタイの 4 冊でした。審査員講評では、「海外からの作品も力作でした。毎年応募することを励みに描いてくれているのですね」と暖かい批評でした。



今年のテーマは「くだもの」と継続テーマの「ばら」でした。大賞は「きになるくだものぼうけんき」を描いた前島里美さんでした。

今年のテーマ、「くだもの」はタイの人達にと

ってもなじみ深いもので、南国ならでのくだものが登場して注目されました。

今年度の応募 4 作品のうち 2 作品が最終選考まで残ったと報告がありましたが、残念ながら連続入選は逃しました。

作品の内最終選考に残った「ドリアンのすくい主」の批評をお伝えします。作品は高校 2 年生の女子 2 人の合作です。



審査員の批評

きたやま先生・くだものにお国がらがでてたのしいたです。

高島先生・ドリアンが出て来るのはお国柄を感じます。明快な絵、色彩が良い。

三輪先生・うまいね

大杉先生・絵がかわいい。きらわれもののドリアンが活躍の場が出来て認められる。よいお話です。

今井先生・タイならではの「くだもの」の楽しい発送の絵本です。

以上の暖かいコメントを下さいました。

応募作品は他に、「幸せなむら」「巨大りんご」「一番おいしいジュース」でした。



② 名古屋の中学校とタイの中学校との交流支援の報告

2011年6月に名古屋市立高杉中学校の教師が来訪され、国際理解教育として、タイの中学校と交流を希望するが、紹介をお願いしたい旨、協力して欲しいと相談を受けました。

FREEのムティタさんに相談して、2007年にワークキャンプを実施した、ロイエット県のブンガーム学校が適当と紹介されました。そして高杉中学校より、タイの子供たちの日常生活や、学校生活の様子を知る為に、「タイの子供たちの生活」をテーマに授業をすることを要請され、10/4日に授業を行いました。

たまたまその時期にタイでの洪水災害が発生して、日本でも広く知られることになりました。高杉中学校では日本とタイとの双方で大きな災害を受けた両国が互いに励ましあうメッセージの交換が相応



しいとの生徒達の提案で、「応援メッセージの旗」を送ることになりました。

1年生～3年生までの8クラスが各2枚のメッセージ・フラッグを作って12月に受け取り、今年1月上旬タイへ発送しました。ブンガーム学校から返事のメッセージが来ることを楽しみにしています



③ 奨学生からの手紙紹介

マナティラ・ブンサン (ヤソトーン県)

財団の皆様、そして奨学金を与えてくださったドナー様、こんにちは
奨学金を与えてくださったドナー様、財団の皆様お元気ですか。

私は日本で大津波が発生したニュースをテレビで知りました。何百人もの死者が、多数の負傷者、そして食べるもの、住む家も無いこれらの人々に心を痛めます。

私は被災された全ての方々に元気付けたく思います。

奨学金を与えてくださったドナー様、私は無事小学6年生を卒業しました。

コーワンウィタヤー学校へのテストに合格、進学出来ました。

コーワンウィタヤー学校のテスト席順1番です。同じ学校に進学した友達は2番です。私たちは良い席順でテストに合

格してとても喜んでます。そしてこれからもこのような形を続けるように努力します。
皆様を思慕しております。2011.09

チャールナン・プラオン・ (ムクダハーン県)

キャンヘルブタイランド 様

私はチャールナン・プラオンと申します。コンタンウィタヤー学校の中学 1 年生です。
私は貧しい家庭に暮しています。父は日雇い仕事をしています。母は別れて別の人と結婚しました。私は妹、父との 3 人で暮らしています。時々父は夜中に仕事に出かけなければなりません。さびしくても私は妹といなければなりません。妹は小学 5 年生です。母が大変恋しいです。時々、父がもらい泣きしないよう、一人で隠れて泣いています。
休みの日には私と妹は田んぼや、草刈など、父の仕事を手伝います。
私は 2,000 バーツの奨学金を下さったことに、大変感激しています。
私は立派な人になるよう一生懸命に勉強して、いただいたお金を最大限に活用します。
最後に深く感謝申し上げます。又皆様のご家族を含めて、ご健康をお祈りします。

ラッタカーン・カムムンクン (ムクダハーン県)

親愛なる私を援助して下さるドナー様へ

私はラッタカン・カムムンクンです。親愛なる私を援助して下さる方、こんにちは。
7月5日に私は奨学金授与式でお金を受取ります。
私はあなたに会いたいです。こちらに来ることは出来ますか。あなたが来てくれたら、私はとても嬉しいです。そして貴方の写真がほしいです。貴方の写真を何時も持っていたいです。私の写真も書類に貼っておいたので取って置いて下さい。
奨学金を受取ったら一部は使って、一部は必要な時のために取っておきます。
私はお金がもらえてとても運がいいと思います。私はもっと一生懸命に勉強します。
私は暇なとき、父と母の手伝いをします。今は丁度田植えの時期で、土曜日と日曜日には 1 日 200 バーツ貰って仕事をしています。そのお金は父と母に渡して家計を助けています。農家の生活は厳しいと解っています。今米はあまり売れません。これからは更に農家の生活は苦しくなるでしょう。でも、何があろうと私は今の父と母の娘に生まれたことに誇りを持っています。父と母は私を一生懸命育ててくれました。
今よく雨が降ります。ちょうど雨季で、田んぼに水がはいっています。でも、去年は雨がぜんぜん降らなくて、大変でした。その時は雨乞いをしましたが、結局は稲が枯れてしまって米が収穫できませんでした。日本の天気はどうですか。やはり同じように雨が降っていますか。
最後に、私は貴方に何も贈るものがありません。私はただ勉強を頑張るだけです。
父と、母と、先生にとって、いい子であるように。
どうぞお幸せに、いつまでも健康でありますように祈っています。

ジェンチラー・コーンカーン (カラシン県)

こんにちは。私はジェンチラー・コーンカーン女の子です。

ニックネームは「イン」です。ドナー様はお元気ですか。
3 月、日本でとても恐ろしい事が発生しましたね。ドナー様は何か影響を受けましたか。ドナー様は震源地にお住まいですか。地震は恐ろしいですか。被災された方は食事や、住まいはいかがが為されていますか。被災された地域は多くを失いましたか。
私は被災された日本の方々が、災害に負けないようにと祈っています。
私は被災された日本の方々を元気づけたく思っています。
あ、そうだ! 財団を通じて送った絵、ドナー様は受け取りましたか。あの絵、私は一生懸命に描きました。いかがですか。きれいに描けていますか。
最後に、私はドナー様のお幸せとご健康を祈っています。さようなら。

ラッティヤーコン・ラッティウィチン (マハサラカム県)

こんにちは、私は現在、バーン・ウォンヤーオ・ウィッタヤーヨン学校の中学 2 年生に在学しています。ラッティヤーコン・ラッティウィチン女の子です。
私は奨学金ドナー様の恩義を深く感じております。私はこの奨学金の受給者に選ばれてとても嬉しく思っています。年間 2,000 バーツを与えてくれる奨学金は「雨の雫」みたいに、病気がちの母と、年老いた祖母を持つ、とても裕福とは

云えない小柄な私の心を、瑞々しく浸してくれます。

私の夢は将来のために、上の学校への進学を望んでいます。夢を叶えるのに、最も重要なことは最大限の努力で勉強することでしょう。そして先生にとって良い生徒であめための、品行をよくすることでしょう。母、祖母にとってよい子であるための、振る舞いをします。私が進学してよい職に就いたら、祖国、社会、地域を助けて、恩返しをします。そして奨学金ドナーを忘れません。恵まれない子供たちのよりどころ、

奨学金ドナー様が末永く幸福と繁栄しますように。

奨学金ドナー様の善意を覚えつつ敬愛しています

連載

～松本さんのコンケン長期滞在記録 Vol.3～

マイペンライ（その3）

何とか楽しんで生活をしていますよ。

この雑文を皆様が読まれる頃は日本では冬の真っ只中、一方タイは「乾季」の真っ只中（昼間は33～35℃位で夜は20～25℃位、湿度は20～30%）で空は小学生の絵にあるような吸い込まれそうな青一色で、見上げた瞬間から頬がパリパリと音を立てて日焼けしていくような強烈な日差しと細かい砂粒を肌に吹き付ける熱風が襲ってくる、女性にとっては大敵な季節なのです。でもその一方で日陰や室内に入ればあの熱風は本当？と思えるような爽やかな空気と涼しいそよ風が包み込んでくれる「別天地」があり僕にはとても不思議に感じる国なのです。

・ご近所さん

我が家は大学と専門学校の近くで学生向けのアパートや寮がたくさんある地域ですが一般の人たちも住んでおり、いわゆる向こう3軒両隣は全て一般の人たちです。

目の前に住んでいるチャイさんは犬のブリーダーと子犬の販売をする傍ら10室程のワンルームアパートを経営し、4年前に日本へ観光旅行に行った事が自慢の50歳台の夫婦です。庭には4～7匹位の子犬がゲージの中に居て、ある時その値段を尋ねたところ「一匹1万B位」するそうで僕が子犬を買いに来るお客さんを見たのはこの一年で二人だけにもかかわらず車を2台（カローラとハイラックス）持ち学生の息子2人もそれぞれ車に乗っていると言うなんとも奥の深い家で、奥さんがしゃべる言葉が「純粋のイサーン語」らしく僕に話すときはゆっくり喋ってくれるのは有難いのですが他の人が喋る言葉と比べて僕が判る単語が少ないのが難点なんです。ただ僕が引っ越してきたとき日本人である僕を好奇が混じった目で見ていた人が多い中で最初から普通の隣人として接してくれ僕がいろんな事を尋ねたり相談に行くといつも笑顔で答えてくれるとても心強い隣人なのです。

左隣は、セブンイレブン（タイで最も多いコンビニで皆は「セブン」と呼んでいます）のオーナーが借りて従業員の寮になっていていつも若い女性が4～5人昼夜出入りしているのですが、その中で姉妹らしき2人がオーナーの子供らしくいつも笑顔で挨拶をしてくれます。その笑顔が作ったものではなく自然に湧いてくる感じがしてとても気持ちや和んできます。その借家の持ち主が3軒となりの床屋のクラークさんで店の前に置いてある竹製の縁台の横に吊ったハンモックでいつもゆらゆら揺られていて、食事はすべて近所の人と一緒にその縁台で食べており僕の顔を見ると「食事はしたの？食べていきなよ」と声をかけてくれ、彼はまだ32歳なのに早くも老眼になりかかっている新聞を少し離して見る（僕は近眼の為新聞等を見るときでも普通の距離で見られるのに）彼のその姿を真似してからかうときだけムツとした顔をする気さくなお兄ちゃんなのです。奥さんも近くの美容院で美容師をしていて毎朝7時半頃男の子を学校に送りながら出勤するときに僕が日本語で「おはよう」と声をかけると親子してにっこり微笑んでくれ、その笑顔を見ると何か一日爽やかに過ごせるような気がしてくるのです。ちなみにタイの床屋さんはカットだけで洗髪はなく髭剃りをしてもしなくても40Bという信じられない安さです。その縁台はいわば地域の社交場になっており近所の人や若者が涼みがてら（タイの人たちは外が好きでそこは昼間でも涼しいため人がいつも居るのです）くつろいでいて、僕は当初は少し違和感を感じたのですが数日でその縁台にも気軽に座れるようになって、すぐにその縁台仲間とも「ご近所づきあい」をするようになったのでした。

右隣に寝に帰ってくるのは向かえで美容院をやっているカイさんで、青空美容院という名のそのお店は朝8時頃から夜の9時頃まで営業しお客さんは近所の学生が主体でその人たちが学校帰りに立ち寄りおしゃべりをしていくいわば学生達の息抜きの場になっているようなお店なのです。カイさんは接客中でも僕の顔を見ると手を振ってくれ、朝食から夕食までいつも食事は店の床に座って食べており彼女の好物のソムタムを「からいよ～」と言いながら僕に食べさせて辛さにしびれる僕の顔を見てキャッキッと喜んでいる親しみのもてる隣人です。

よく「日本人はお金を持っていると見られているから注意したほうが良い」と言われますが、一般の人たちに混じって生活してみると、その言葉は日本人旅行者に対するもので住人となれば言葉の障害や気質の違いはありますが日本に居るときと何一つ変わることなく暮らしていけると言う事を感じています。

このように僕自身は愛すべき隣人たちと「普通のお付き合い」をしながら生活が出来る小さな幸せを実感している毎日なのです。

次回は、言葉の障害や気質の違いについて書きたいと思います。

(皆様が感じておられる疑問やテーマについてのご要望がございましたら、事務局までお気軽にご連絡ください)

2011年11月 コンケンにて 松本 康裕

P.S.

タイの洪水被害は日本企業が多く被害にあっている関係が皆さんも良くご存知かとは思いますが、現在アユタヤで日本政府による排水作業が続いておりここコンケンでも僕に対して支援金と支援事業に対して「ありがとう」と声をかけてくれる人がいます。現状では年内に水を排水し終わるのは難しいらしく、住民の生活が元に戻るのには年明けから3月頃になるようです。ただ救いなのは被害にあわれた住民の表情が意外と明るく普段と変わらない事です、国民性の違いと言ってしまうかもしれませんが・・・

コンケン近郊でも1m以上冠水したところが2~3箇所ありますが11月下旬にはだいぶ少なくなり避難しているお宅も当初の20%位に減ってきています。

被害にあわれた皆様には心よりお見舞いを申し上げます

運営委員会

(2011年11月~2012年1月)

活動	月日	場所	内容
運営委員会	11月27日	メール	奨学金ドナーへの書類発送
運営委員会	12月24日	事務所	忘年会
運営委員会	1月28日	事務所	NT通信56号について、総会について

運営委員募集中!

一緒にキャンヘルプタイランドの運営に参加してみませんか?

通常は毎月第4土曜日に事務所に集まり、会の運営について話し合っています。見学でも結構ですので是非事務所へ遊びに来てください。

次回の運営委員会は 2月25日(土) 13:00~ (事務所にて) です。

編集後記

▼新年あけましておめでとうございます。本年も、きちんと皆様にネットワーク通信が届くよう頑張ります。昨年は日本でもタイでもいろいろなことが起こり、キャンヘルプタイランドの活動もあまり活発に行えませんでした。今年は災害復興支援の意味も込めてタイで何かできればと思っています。バンコクなどの中心部での洪水については日本でも報道されていますが東北地方などの田舎でもかなりの被害が出ているはず。現地スタッフのムさんからの情報を待って、今年の支援を決めたいと思います。ご期待下さい。

<キャンヘルプタイランドネットワーク通信 Vol.56>

発行 キャンヘルプタイランド

発行人 西川 弘達

編集人 坂 茂樹

発行日 2012年1月31日

住所 〒450-0003

名古屋市中村区名駅南2-11-43

NPOステーション内

Tel & fax 052-566-5131

(OPEN: 毎週火、木・土曜の13~16時頃)

E-mail: canhelp@npo-jp.net

ホームページ: <http://www.canhelp.npo-jp.net>